

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

これまで港湾・漁港の調査・設計に関する業務に携わり、この世界に入って気づけば今年で23年目に突入しました。この職種は世間ではあまり認知されておらず、仕事を訊ねられたとき「調査・設計をして、みなとの形を決めている仕事です。」と言うと「そういう人がいるんだ。」と初めて気付かれる職種です。小学校でもお父さんの仕事の話になったとき、子供が「海のしごと!」と答えると周りは「魚を採る仕事?」となります。

世間の公共交通機関は道路・鉄道・空港、食糧は農地と海というイメージが多く、これらが港湾・漁港に繋がらず、テレビで映される地震や台風による災害現場も道路や橋、鉄道が映され、港湾・漁港は高波の映像が映される程度です。しかし、港湾・漁港は物流・食糧の拠点であり、みなさんの生活を支えています。特に北海道は他県との流通手段は、ほぼ航路(青函トンネル・空路もありますが…)であり、食料自給率(魚介類)も唯一単独で100%を超えています。このため自分の仕事は影ながらみなさんの生活を支える重要な職種であると思い、更なる技術向上の一つとして技術士を取得しました。

技術士を取得する際に、同業他社の先輩技術士の皆様からアドバイスを頂いたのを始めに交流の輪が広がり、現在も交流を続けさせて頂いている傍ら、受験指導のお手伝いをしています。受験指導は再度受験している気分になり、時によっては自分のとき以上に汗をかく場合があり、なかなか厳しいです。

港湾・漁港の施設も他の公共施設と同様に、高度経済成長期に建設されたものが多く、新たなインフラ整備よりも既存施設の有効活用が重要となっています。過去の諸先輩が設計した施設を自分がこれからも利用できるように調査・設計によって永続させ、将来、自分の子供が大人になり、港に行く機会があったときに今度は「お父さんが作ったみなと」と言ってもらえるように、今後も子供(もちろん社会)のために貢献していきたいと考えております。

## 東川 典裕 (ひがしかわ みちひろ)

●建設部門(港湾及び空港)

### 勤務先

日本データサービス株式会社  
水工第I部



→次号は、島倉知広さん(水産部門)

私は高校を卒業するまでを美瑛町で過ごしました。小学校の頃、漠然と「大きな物を設計したい」という思いがあったことを覚えています。その後、室蘭工業大学に進学、就職は建設コンサルタント会社を希望し、現勤務先に入社しました。

入社以来、橋梁を中心に道路構造物に関わる調査、設計業務に従事しています。設計のイロハもわからない所から、様々な課題に全力で向き合っているうちにアツと言う間に12年が経っていました。

これまで、新設橋梁の予備・詳細設計から補修設計、橋梁点検等、幅広く業務に携わる事ができ、とても恵まれていたと思います。

入社当時、社内の「若手」技術者は少なく、年齢の離れた先輩方になんとか近付こうと、必死だったことを覚えています。大変な事も多かったのですが、全道各地への出張ではご当地グルメにありつけるので、食べ物には目がない私にとっては良い気分転換になりました。(体重も増えましたが…)

同世代以下の技術者が少ない中、何年経っても「若手」のイメージが拭えない状況で、「自分のレベルを確かめたい」との思いから技術士試験に挑戦し始めました。初年度は全く歯が立ちませんでしたが、受験申込書の作成から面接に至るまで、先輩技術士の方々にアドバイスを貰いながら、4回目のチャレンジでなんとか合格することができました。資格取得によって自信を持つこともできましたし、技術士試験をとおして、物事を多角的に捉え、理論的に説明する癖が付き、普段の業務においても活きていると思います。

これからも社会基盤維持・地域発展の一翼を担えるよう、現状に満足すること無く自己研鑽に励んでいきたいと考えております。

## 塚田 倫仁 (ツカダ ミチヒト)

●建設部門  
(鋼構造及びコンクリート)

### 勤務先

株式会社開発工営社



→次号は、山本岳さん(建設部門/道路)